

平成27年度 徳島市大松小学校 学校評価について

アンケート結果から考えられる今後の取組

1 学校経営

- ・本校の児童は素直であるが、受け身な面が見られる。児童が主体的に活躍できる場づくりが十分でなかったのかもしれない。今後は、学校生活全体を通じて主体的に課題解決する児童を育てるとともに、児童にとって魅力ある学校となるよう更なる具体的な手だてを考えていく。
- ・家庭との連絡を密にして、保護者の思いを十分把握した上で児童が安心して通える学校となるよう家庭との連携を強めていきたい。
- ・来年度から社会科の研究大会が3年間続く。大松小学校教育を全職員で盛り上げていく。

2 教科指導

- ・帰宅後すぐに家庭学習に取り組むよう、児童に繰り返し指導していくことが大切である。また、学年便りなどでも啓発し、家庭と学校とが連携して家庭学習の仕方について定着させていきたい。家庭と連携を図りながら、児童の努力を認め、応援する環境を整えたい。
- ・グループでの話し合いを授業に積極的に取り入れ、友達の意見をよく聞いたり、自分の意見を分かりやすく伝えたりする練習をさせることが必要である。

3 人権教育

- ・自分の考えと友達と意見が合わないとき、話し合いでよりよい解決方法を見つけられるようにする。そのため自分の気持ちを上手に相手に伝えようとするコミュニケーション力をつける必要があると考える。
- ・学習したことが保護者に伝わるよう、各種たよりや人権ファイル「なかま」による啓発をしたり、学習したことがわかるような教室・廊下掲示を工夫したりしていきたい。
- ・人権学習で学んだことをもとに、生活のあらゆる場面でよりよい仲間作りができるように教職員の人権感覚を磨き、指導の充実を図っていきたい。
- ・教科との関連を考えた年間指導計画や体験学習、授業形態の工夫を研究し、実際の生活の中で正しく判断し粘り強く行動できる児童の育成をめざしたい。

4 生徒指導

- ・本校の児童は相手から声をかけられるとあいさつを返しており、あいさつをしていると自己評価をしているが、保護者から見ると、児童から進んではあいさつできていないとの評価になっていると考える。今後は、学校生活全体を通じて自分から進んであいさつすることの大切さを指導していく。
- ・教職員全体で共通理解を図り、家庭とも連携しながら継続して指導の徹底を行う必要がある。
- ・保護者の自由記述からも本校の児童が自らすすんであいさつができていないことがうかがえる。その中には「声をかければ返してくれるが、自分からあいさつできる子どもは少ない。」との記述がある。今後は進んで児童の方からあいさつができるように指導を行う必要がある。
- ・指導の効果を上げられるように、あいさつすることの意義を児童に考えさせたり、朝の会等であいさつができたか毎日確認したりする等、指導の手だての共通理解を図り継続して指導する。
- ・児童の問題行動が起こってから指導を行うのではなく、児童をよく観察し、問題行動が出現する前に積極的な指導を行うようにする。

5 安全指導

- ・登下校時の児童の様子を見てみると、特に下校時は気持ちの緩みがでやすく、横に2・3列になって歩いたり、急に道路の中央部に走り出したりして、必ずしも常に安全な登下校ができているとはいえない。そこで、折りにふれ学級での登下校に関する指導を行うとともに、毎日下校時には、担当の教員が立哨し、児童の登下校の安全を呼びかけていきたい。また、地域からいただいた情報を保護者にも積極的に伝え、保護者とともに安全指導を徹底したい。

- ・PTAの集まりや学級・学年懇談，学年便りなど機会あるごとに交通安全について話題にして，家庭でも声かけをしてもらう必要がある。
- ・年度初めには，全校児童の「緊急時引き渡しカード」を家庭に持ち帰り，使用方法や記入事項を見直すとともに，梅雨の時期や台風の時期などをみて，学年通信や各種便りを通して家庭に啓発をするようにしていきたい。
- ・校門周辺での下校指導を徹底していく必要がある。毎日のことに関わるので，常に児童が安全を優先に行動ができるように意識づけしていく必要がある。保護者や地域からも情報を提供してもらい，大松地域全体で安全活動につなげたい。
- ・全教職員において災害時の児童への対応の統一のためにも，活動を伴った防災の校内研修の時間を設けることは必要である。

6 特別支援教育

- ・特別支援教育に全教職員で取り組む体制づくりを徹底させたい。
- ・個に応じた指導の具体策を特別支援学級担任が中心となり全教職員に広げていく体制をさらに明確にすべきである。また，個に応じた指導をするための教材教具をさらに工夫する必要がある。

7 特別活動

- ・話し合い活動をさらに充実させ，児童が主体的に取り組めるような指導をしていく。
- ・児童が目標を意識して，それに向かって努力させたい。引き続き，各学級で具体的な目標を示し，こまめに振り返りを行うことで達成感をもたせ，より高い目標に向かえるように根気強く指導する。
- ・各学年の児童のめあてを保護者に具体的に示すとともに，児童のがんばっている姿を学校から保護者にもっと発信していく。学年便りや学級通信などで児童の姿がよく見えるよう工夫が必要である。
- ・各学級での話し合いの重視や児童がよりよい学校作りに参画していくための体制を考えていく。
- ・問題解決的な学習過程や児童が主体となる場づくりを全教職員で足並みをそろえて実践していくよう研修を重ねていきたい。

8 道徳教育

- ・学校生活において全教職員が望ましい言葉遣い等についての共通認識をもち指導を継続していくことが大切である。
- ・今後も道徳の時間を中核に据え，学校生活全体において指導の充実を図る必要がある。
- ・保護者に向けて学年便りや個人懇談の機会に言葉遣いや望ましい行動について啓発をしていく必要がある。学級でも，児童のがんばりを認め，自尊感情を高める取組を進めていく必要がある。
- ・日々の児童の学校生活の中では言葉が原因でトラブルになることは多いので，自分の発した言動で相手がどのような気持ちになるのかを感じる心を今後も道徳教育を通して考えさせたい。

9 保健指導・体力向上

- ・下学年に比べ高学年は室内にとどまっている児童が多い。今後とも，高学年を中心に声かけを進めたり，興味を持てる内容の運動を紹介したりしていきたい。
- ・低学年で9時まで，高学年で10時までには就寝するように指導している。これからも保護者に理解と協力を求め，家族ぐるみでの早寝・早起き・朝ごはんを奨励していきたい。
- ・家庭では「ゲーム」を長時間している児童が多いということが考えられる。「学校保健委員会」で行った「メディアとのつきあい方」のような内容を通して，家庭と連携し，ゲームの時間やテレビを見る時間などの約束を決めたり，運動の効果を伝えたりするなど，啓発を進めていきたい。
- ・朝食の内容について，栄養バランスのとれた望ましい朝食をとって，子どもたちが大切な一日のスタートが切れるように，機会を捉えて，保護者に理解と協力を求めていきたい。
- ・姿勢は学習意欲にも大きな影響を与え，姿勢のよい子は学力が高いといわれている。教職員も子どもたちの姿勢にしっかり目を向け，見逃さず，根気強く指導していかなければいけない。

10 食育指導

- ・完食調べなどを実施して児童への啓発ができた。今後も継続して指導していきたい。